

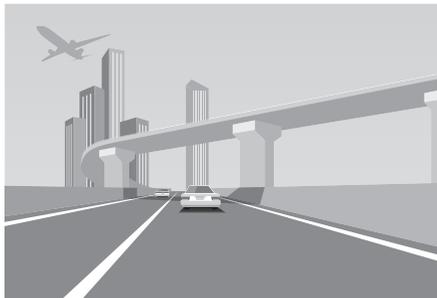
静岡産業大学総合研究所は、2012年の創設以来、静岡県のビジネス社会をはじめいろいろな社会の発展に寄与することを願い、大学に蓄積してきた情報、知見、アイデア、研究成果、教育力を提供する地域連携活動を行ってきました。また、皆様方の日々の活動のお役に立つ、身近な情報を広く提供すべく、随時ニュースレターを発行しております。今後とも、よろしくお願いたします。

今月のテーマ

人口減少・超高齢化社会の出現、人生100年時代、グローバル化 科学技術の驚異的な進歩・イノベーションの時代

静岡産業大学 総合研究所 所長 大坪 檀

2020年。あと30年で2050年。21世紀の中間点だ。次の30年を皆さんはどう見ているだろうか。どんな生活をしているだろうか。30年といえば平成は30余年だった。筆者はこの静岡県でお世話になって30余年。20年、30年はすぐに経つ。いろいろなことが起こった。静岡県立大学、静岡文化芸術大学が誕生。静岡



産業大学は今年で開学26年。静岡産業大学の卒業生は9600人を超え、ほとんどの人が静岡県内で仕事をしています。博士号や修士号を取り社会で活躍している人や管理職の仕事についている人も多い。

東京オリンピック、パラリンピックが開催される。2025年には大阪万博が開催される。前回の東京オリンピックが開催されたのは1964年、大阪万博は1970年。この二つのビッグイベントが開催されて半世紀余、日本の社会は大きく変革した。身近のものでは新幹線、高速道路、石油ショック、バ

ブルにリーマンショック、9.11事件、東北大震災、原発事故、・・・いろいろなことが起こった。

市町村合併、東静岡の出現、エコパ、富士山静岡空港、静岡がんセンター、富士山や韮山の反射炉、



三保の松原などの世界遺産登録……皆さん。これと思われるもの上げてください。気づかなかったけれどこの20～30年で静岡県でもいろいろ起こった。静岡産業大学は学校法人新静岡学園が運営する大学だが、2020年の初頭、サッカーで優勝した静岡学園高校と同じ母体だ。静岡銀行の柴田頭取はこの静岡学園高校出身。藤枝順心高

校もサッカーで優勝、アベック優勝で静岡県が沸いた。2019年静岡のエコパで、日本がラグビーの強豪アイルランドを破り「静岡ショック」という言葉が誕生。静岡が注目された。いろいろな変化が起きている。

今回の東京オリンピック、大阪万博の後の日本はどう変わるのか。静岡では自転車競技が行われる。この静岡県はどうなるのか。リニヤモーターカーが営業を開始すると新幹線の運行はどうなるのか。ヒカリの増発で、東京圏、関西圏の両市場は1時間内外の通勤圏、静岡県が両巨大経済圏を支配し始めるかも。



政府は2050年の未来計画を構想している。国連は2030年を目標にするSDGsを作成し日本政府もこれを支持、共同歩調をとっている。未来を正確に予測し、その図式を提示することは不可能だが、いろいろな情報をもとに自分なりに直面する環境変化を色々洞察し、描き、備え、対応することはできる。新しい静岡を創造することも可能だ。2020年、この意味ある年に色々な方に本総研

ニュースに執筆参加していただき、それぞれの知識、想像力、情報、見方をもとに次の20～30年の日本、静岡を洞察、描いていただき、皆さんと情報共有し、参考にしあう機会を作ることにした。そして今回がその第一回。



これまでの30年とこれからの30年。何が決定的に違うのか。



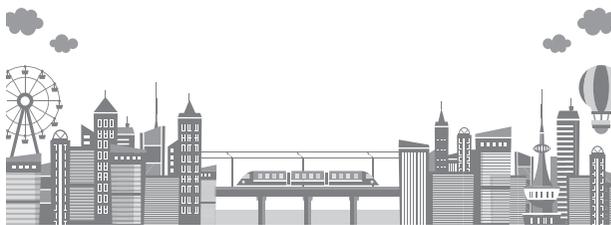
まず第一に日本のこれまでは人口増加をベースとしたもので、行政計画も社会制度も人口増加をベースとしたものだった。次の30年は人口減少、超高齢化時代をベースとするもので人生100年時代となる。我々世代が経験したことの無い30年ということになる。この人口減少の進み方は尋常ではない。ピーク時は1973年で209万人が生まれた。1990年に生まれた子供の数は122万余、2015年は105万余。そしてなんと2019年は86万余と推定されている。2020年は何人生まれるか。

未来予測は当たらないものだが人口予測は当たるといわれている。この人口予測数値から色々なことが読み取ることができるが、皆さんは静岡県の未来、20~30年先をどう読むか。

日本の人口は2005年がピークで1億2,777万人だった。2020年は1億2,500万人 20年後の2040年には1億1,000万人、そして2050年には一億人を割り9,515万人となると推定されている。なんとこの30年間で3000万人の人口が減少、この日本から3000万人の人がいなくなるというよいのかも。わかりやすく表現すると東京都と神奈川県現在の人口を合わせると約2,000万人。3000万人とはすごい人数なのだ。

静岡県の人口はどうか。1970年は300万人→2015年は370万人→2020年は362万人→2040年は309万人 20年後は今より60万人近く減ると推定。

静岡市の人口は2019年に68万人。2040年には56万人と推定されている、浜松市は67万人、沼津市は15万人、川根本町は4000人。人口は減少し、高齢化は進展する。人生100歳時代 世界一長寿者は日本人で116歳。全国で100歳の人



は7万余人。2040年には34万人、2050年には52万人。100歳の高齢者は珍しくない。静岡県の100歳は2019年に2088人。2040年には1万人を超す可能性が十分ある。静岡県の高齢化は全国平均より進展するとみられており、2040年には高齢化比率が38%程となるものと推定されている。この数値では10人に4人が高齢者ということになる。少子化と高齢化の波で間違いなくこの30年、静岡県でも産業構造、社会制度に様々な変化が発生する。終身雇用、年功序列型賃金体系、定年制度は大幅に変化するの間違いはない。今までは日本型人事管理の終焉は長い先のことと言われてきたが、今度はいいよ変化すると覚悟した方がよい。職業、働き方、生き方、学び方、様々な面で変化が起こる。何が起こるか。みんなで考えてみようでないか。そして未来を創造することを考える。新時代をこの静岡に作ろうではないか。

第二に、よく言われていることだが新産業革命の時代に入る。科学技術の大進化、大変化が言われている。5G、6G、IoT、AI、ロボット、ドローン、自動運転、遺伝子ゲノム編集、何が出てくるか。新技術の進化、発展は多くの分野で起こる。新型の成長産業→高付加価値産業が出現し、イノベーションの時代の到来を実感させる。この静岡県が医薬品等では日本一を誇るが次のこれからの20年30年ではどうなっていくか。トヨタが裾野市で未来都市を建設するという。この静岡県にはファルマーバレー、フォトンバレー、フードサイエンスバレーなどと新産業の創出プロジェクトがある。大化けて日本のシリコンバレーを誕生させたいものだ。

最後に、次の20年、30年で、世界には多くの新市場が誕生する。

